



災害時の男女平等参画を考える

東日本大震災で被災した女性の写真と「声」から (PhotoVoice)

東日本大震災から11年余たち、復興したとの声も高くなっていると同時に、風化も心配されています。フォトボイス（写真と声）のグループでは、震災直後から現在まで、被災した女性たちが、被災後の生活や地域社会の課題などを写真に撮り続け、社会に伝えたいメッセージ「声」も創っています。

写真と「声」は一体であり、女性たちの眼と心が、大震災をどう観たのか、感じたのか、考えたのかの記録と発信です。写真と「声」の展示と、トーク・イベントによって、今後の災害対応や防災、災害・復興と男女平等参画、多様性について考えてみませんか。

プレゼンターの写真（「声」は当日読みます）



ひとはり…ひとはり…フェルトのお菓子
撮影 うさぎ



仮設住宅の跡地に思う
撮影 山桜



いまだに高い放射線量
撮影 マリリン

会場はいずれも港区立男女平等参画センター（リーブラ）

写真と「声」展

（開館時間内に自由にご覧になれます）

2022年

7/2（土）～7/14（木）15時まで

会場：リーブラ館内

避難する、さまざまな喪失、女性の働き、ジェンダー平等、除染を考える、防災と安全など多岐にわたるテーマに沿って約40点を展示。

どちらも
無料

トーク・イベント

7/9（土）13:30～15:30

会場：リーブラ学習室C

手話・一時保育あり
（裏面をご覧ください）

要申込み

プレゼンター（語り部）：

うさぎさん（宮城県在住）、山桜さん（福島県郡山市在住）、マリリンさん（福島県から都内に避難）

プレゼンターが撮った写真と「声」をもとに、伝えたいことを語っていただきます。

災害・復興と男女平等参画について考えてみましょう。

11年の活動をまとめた資料付（参加費：無料／定員：25名／対象：テーマや防災に関心ある方）

（コロナ禍の状況によりプレゼンターがオンライン参加、またトーク・イベントもオンライン開催になる可能性あり）

NPO 法人フォトボイス・プロジェクト

東日本大震災発生後の2011年6月より、被災3県と東京の7か所のグループで、写真を通して語り合う活動を被災した女性たちと共に実施。

展示会や、写真と「声」集の刊行、報告会やワークショップなど幅広く社会に発信している。

ホームページ <http://photovoice.jp/>

フェイスブック <https://m.facebook.com/PhotoVoiceProjectJapan>

☑ フォトボイス (PhotoVoice) とは

1990年代はじめに、アメリカで開発された手法。

写真とそれに添えるメッセージの展示、インターネット上での発信、動画などの作成、さまざまな媒体を通して、発信者の気持ちを伝え、社会の課題や問題を指摘します。

特に社会的に弱い立場にある人々の視点を政策や支援の現場に反映するために使われることが多く、人々の声を伝え、人権の向上をめざすために有効な方法として海外では幅広い分野で用いられています。

参加申込み・問合せ

トーク・イベントは申込みが必要です。

定員に達し次第申込受付終了

- ① お名前
- ② お電話番号
- ③ 手話通訳 有無 (6月20日までに要予約)
- ④ 保育の希望 有無

①～④を明記の上 photovoicejapan@gmail.com Tel:080-7951-8280またはQRコードから。



申込みQR
こちらから入れます

※一時保育 対象：生後4か月～未就学児 (定員あり・申込順)

6月20日(月)までに要予約

会場

港区立男女平等参画センター リーブラ



〒105-0023

東京都港区芝浦 1-16-1 みなとパーク芝浦 2階

アクセス

JR「田町駅」東口(芝浦口) 徒歩5分

都営地下鉄浅草線「三田駅」A7出口・三田線「三田駅」A9出口 徒歩7分

ちいばす 芝ルート・芝浦港南ルート「みなとパーク芝浦」 徒歩0分

芝浦港南ルート「芝浦一丁目」 徒歩4分

都営バス(田92・99)「田町駅東口」 徒歩6分

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、間隔を空けて着席いただけるよう定員数を減員設定しています。また、入室時のマスク着用、アルコール消毒および検温にご協力をお願いいたします。体調不良時のご参加はご遠慮ください。

※開催方法がオンライン講座(Zoom使用)に変更となる可能性があります。その場合はお申込みいただいた方に主催者から受講方法等をご連絡いたします。

※ご提供いただいた個人情報は、お申し込みの講座の運営およびそれに関わるご連絡以外の目的には使用しません。また本人の同意なく第三者へ提供することはありません。